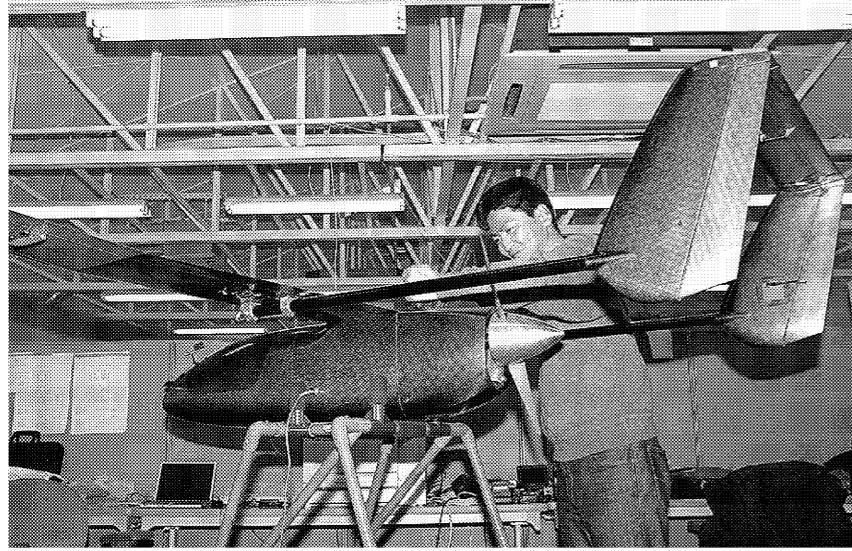


小型無人機

大樹で飛行試験開始

観測・監視用の単発機開発へ

JAXA



JAXAが実用化を目指している多目的小型無人機

【大樹】宇宙航空研究開発機構(JAXA、本部東京)による多目的小型無人機の飛行試験が、21日から大樹町多目的航空公園で始まった。カメラや観測器を搭載し、気象観測や海上監視に使える単発のプロペラ機を2、3年以内に実用化することが狙い。事前に設定したプログラムに従い、自律飛行できる機体の開発を目指す点が特徴だ。今回の試験では飛行の手順を確認するほか、飛行性能などに関する各種データを蓄積する。試験は20日までの予定。(浅井文人)

これまで千葉県野田市で計3回、同様の飛行試験を行ってきた。今回は機体の性能を十分に発揮する飛行試験を行うため、より面積が広い同公園を試験地を選んだ。試験にはJAXAの飛行試験技術開発センターの穂積弘毅主任研究員ら6人が参加。機体(プロトタイプII型)は、全長1・85m、全幅3・32m、重量20kg。動力は2サイクルのエンジンを搭載。機体後方に付いたプロペラで飛行する。飛行試験は、まず機体を屋根の上に載せた乗用

車を走らせ、スピードに乗った時点で切り離す。上昇、水平飛行、旋回飛行、降下、離陸などの一連の飛行手順を確認する。試験段階のため、今回は自律飛行ではなく、地上から遠隔操縦で行う。小型無人機の開発は、気象庁気象研究所や海上技術安全研究所と共同で実施。危険な災害現場や火山の観測、海難者の捜索、不審船の監視などで活用される見込み。穂積主任研究員は「長時間の飛行ができるほか、小型で持ち運びも便利。大学生の研究などで手軽に利用してもらえる機体にした」と話している。